

Agora

人文社会科学部ニュース<アゴラ>

“AGORA”とは、ギリシャ語で“広場”という意味です。

教員の研究を紹介するコーナー

ふぁんたすていっく!

私の専門は日本近代史です。明治初年に国家建設に携わった人物の考え方や、彼らが基盤とした組織(主に行政官庁)の活動の分析を通じて、現代日本の直接的起源である、近代国家の建設過程の解明に取り組んでいます。研究の方法としては、当時の人々が遺した文字資料=史料を可能な限り博搜し、見つけた史料を一つ一つ精緻に読み解いてゆく、極めて地味で手間のかかる作業を行っています。知り合いの研究者からは、私の仕事は細かすぎて真似できないとよく言われますが、自分の性に合っているせいか、私自身はあまり苦に思ったことはありません。

例えば、私は生まれも育ちも宮城県ですが、都道府県が生まれる起源となった、江戸時代以来存在した藩を一举に廃止した1871年の廃藩置県もこれまで扱ってきたテーマの一つです。従来の研究では、^{井上馨の}廃藩置県の断行やその意図については、実行に携わった井上馨の後年の談話(『世外侯事歴維新財政談』)をもとに描かれるのが常でした。ところが、この談話のもとになった速記録(公益財団法人三井文庫に所蔵されています)を確認しますと、1873年に行われた地租改正を1874年のこととし、また実母の没年を実際の2年前の1870年とするなど、井上の記憶力はお世辞にも良いとは言えないことがわかります。そこで私は、後年の談話に

依拠するのではなく、当時井上自身が記した手紙や書類を網羅的に収集し、その内容を検討することで廃藩置県を行った井上の意図を復元するという地道な作業を行いました。その成果については、廃藩置県後に井上が拠点とした大蔵省の活動の分析とあわせて、最近著書にまとめたところ(『維新の三傑』)として知られる大久保利通や、立憲政治の導入に活躍した大隈重信について研究を続けています。

ところで、井上の談話速記録には、談話がなされた1910年当時、内閣記録課において保存してあるはずの廃藩置県の号令に関する記録が見つからないという話が出てきます。研究上においても、明治政府発足以来の記録は、1873年の皇居の火災によってそのほとんどが失われたと長らく考えられてきました。しかし、先述の史料博搜の過程で、内閣記録課を前身とする、政府の過去の記録を保存している国立公文書館に廃藩置県詔の原本(決裁原議)が所蔵されていることを突き止めました。100年以上前に失われたとされてきた史料との邂逅も、歴史研究の醍醐味だと思います。

人間文化コース
准教授 小幡 圭祐



井上馨
(国立国会図書館ウェブサイト)



拙著



廃藩置県詔の原本(国立公文書館)

学部長あいさつ

人文社会科学部長 清塚 邦彦



人文社会科学部はこの4月で3年目を迎えました。以前よりも長い学部名称で名乗ることに、私個人はようやく慣れてきましたが、構内の建物表示はまだ完全には新名称に切り替わっていません。実際、4年生はまだ旧人文科学部のカリキュラムで学んでいますので、学生はどちらの学部名を名乗ったらいいか、時に戸惑うこともあるでしょう。

そんな戸惑いが大きく感じられるのは、先立つ人文科学部時代がずいぶん長かったことも一因かもしれません。1967年に文理学部が二つに分かれる形でスタートした人文科学部は幾度かの改組を経ながら、通算では49年に及ぶ長い歴史を持ちます。

では先立つ文理学部は、と溯りますと、その創立は1949年で、新制山形大学の創立と重なります。通算すると今年で70年目。今秋には創立70周年の記念行事が行われます。

しかし、人文社会科学部にはさらに前史があります。山形大学は、先立って県内にあった旧制山形高等学校、山形師範学校、山形青年師範学校、米沢工業専門学校、山形県立農林専門学校が統合されてできたものです。その中で、人文社会科学部と理学部の前身にあたるのが旧制山形高等学校です。その創立は1920年

です。そこから数えると来年で100周年にあたります。

発足わずか3年目の人文社会科学部ですが、その背後には、人文科学部の49年、文理学部の18年、山形高等学校の29年という長い伝統が控えているわけです。それぞれの時代にはそれぞれの個性があるので、単純に全体を同一の組織と見ることはできませんが、そこに確かな連続性が脈打っていることは間違いありません。もちろん、その原動力となっているのは本学部で学ぶ学生、働く教職員であり、また本学部を母校として応援してくださる卒業生です。さらに、改組の前後を通じて本学部を継続的に支援して下さる地域の方々の期待も忘れるわけにはいきません。(昨年、ふすま同窓会館を訪ねた折、見せて頂いた山形高等学校関連の資料の中に、学校設置を支援する多くの市民からの寄附申込書があり、感慨深く拝見しました。)

大学の再編をめぐる論議が喧しい昨今、教育研究の場を支えてきた様々な方々の尽力について改めて思いを致している次第です。

ナスカ研究所活動報告 遺跡の消滅と再発見:ナスカ台地付近の調査より

ナスカ研究所 松本 雄一

有名なナスカの地上絵の北側に位置するインヘニオ河谷では、山形大学のチームが2013年から調査を続けています。岩山を歩き回って遺跡(神殿・居住地・墓など)を登録していくという非常に地道で根気のいる調査ですが、5年以上の調査を経て谷全体の遺跡の分布地図がようやく完成し、地上絵を作成した人々がどのような場所に暮らしていたかが解明されつつあります。

ナスカ地域の考古学には20世紀前半にさかのぼる歴史があり、何十年も前に著名な研究者が記録を残した遺跡も数多く存在します。そのような遺跡に関してもきちんと再訪し、改めて現在の研究に照らし合わせたデータを得ることは重要な作業です。しかし、20世紀前半の調査記録をもとに遺跡を特定するのは容易ではありません。当然ながらGPS(全地球測位システム)の位置情報などは存在しませんし、出版された写真も不鮮明なことが多いのです。スケッチのような地図と当時の記述を頼りに四苦八苦しながら歩き回る日々でした。たいていの場合は何とかなどり着けるのですが、完全に破壊されてしまいどうしても見つからないものもありました。

実際のところ農地や宅地の拡大、そして盗掘で遺跡が破壊される例は枚挙にいとまがありません。この点はナスカの地上絵に関しても例外ではなく、近年破壊が大きく進んでいることが、山形大学の調査によって明らかになっています。インヘニオ河谷の調査でも無残に重機で破壊された遺跡を見ながら暗澹たる気持ちになるのはいつものことでした。考古学者の間では、「あの遺跡が壊された」とか「あそこ遺跡が工事のあとで完全に消されてしまった」などの会話が天候の話なみに頻繁になされるものなのです。

インヘニオ谷には、破壊によって姿を消してしまったと考えられている遺跡がいくつもあります。しかし、研究者の側の「破壊が進んで消えてしまう遺跡」というイメージが、今度は逆に調査にバイアスを与えてしまうこともあるのかもしれません。今回の調査データを分析している際に、1950年代の調査報告で報告された後、その後何人も研究者がその特定を試みながら果たせなかつた遺跡を再発見できた可能性が浮上してきました。ある遺跡の建築レイアウトを検討した結果、いくつもの論文で完全に破壊されてしまい、消えたものとして扱われてきた遺跡とよく似ていることが分かったのです。盗掘の被害は受けていますが大規模なものではなく比較的良好的な保存状態でした。皮肉なことですが、重要な遺跡と知られていたら、より激しい盗掘を受け、多くのデータが失われていたかもしれません。山形大学のチームでは今後この遺跡の発掘調査を行うことを検討しているのですが、これまでの定説を覆すような成果が得られるかもしれないと今から胸を躍らせています。



岩山を歩きながら遺跡を登録していく。位置情報データ、建築、遺物などを記録する。



盗掘による破壊。白く見えるのは人骨である。もともと墓域であったのだろう。

2018年度 人文社会科学部附属映像文化研究所活動報告

人文社会科学部附属映像文化研究所 所長 西上 勝

本研究部では、映画研究部門と山形映像文化研究部門の二つの部門で構成されています。昨年度においてもそれぞれ独自の研究を、継続的に進めてきました。今年度は、これまでの研究成果に基づきながら、より独創的な内容を深め、その成果を積極的に皆様にお示してまいります。引き続きご注目頂きますようお願い申し上げます。

両部門の詳しい活動内容は、以下に両部門長から報告致します。

映画研究部門の活動

映画研究部門長 大久保 清朗

映画部門では、フランスの映画批評家アンドレ・バザンの業績を再検討する「アンドレ・バザン研究会」を2016年度から発足させ、研究を続けてきました。

バザンの生誕100周年に当たる2018年は、研究発表会とシンポジウムを東京と山形で公開開催し、その研究成果を広く発信する機会を持ちました。先ず11月11日には、「バザン、レリス、闘牛」と題し、日本未公開の映画『闘牛』を初めて特別上映するとともに、レリス研究者と映画研究者によるワークショップを実施しました。翌12月には、東京大学(駒場キャンパス、16日)及び山形大学(20日)において、生誕100周年イベントを開催、山形では「映画とアダプテーション」と題し、映画における翻案(アダプテーション)について、バザン研究の第一人者であるイェール大学教授ダドリー・アンドルー先生をお招きし、講演をして頂きました。

これらの事業の成果は、2019年3月刊行の『アンドレ・バザン研究』第3号にまとめております。



山形映像文化研究部門の活動

山形映像文化研究部門長 石澤 靖典

山形映像文化研究部門では、東北の写真文化を調査・研究するプロジェクトを進めており、3年目に当たる2018年度は、これまでの活動の一つの集約点として、戦前から戦後にかけての東北6県の地域写真を個別に検証する試みに取り組みました。

先ず12月22日に、シンポジウム「大正・昭和期における東北の写真文化」を開催、東北の地域性に根差した写真文化の実態を、各県から招聘した美術館学芸員とともに考察し、それぞれの県の独自性と東北としての共通性を浮き彫りにすることができました。続いて、シンポジウム「戦後日本の写真史と文化運動 ―(リアリズム)のゆくえ」(2019年3月16日開催)では、1950年代の「リアリズム」運動を戦中の報道写真の流れからとらえ直し、その意義や理念について、写真や文学、絵画、映画など様々なジャンルにまたがる多角的な視点から検証しました。

また、去る2016年に開催したシンポジウム「近代都市の相貌 ― 明治山形の写真・絵画・建築」の報告書にまとめ、本年3月に刊行しました。



人文社会科学部附属やまがた地域社会研究所の活動… 平成から令和へ

人文社会科学部附属やまがた地域社会研究所 所長 是川 晴彦

やまがた地域社会研究所では、地域の特色や魅力の調査・分析や、地域課題の解決に関する研究を進めています。以下では最近の特徴的な事業を紹介します。

1. 国道347号の通年通行による地域活性化効果の調査・研究

尾花沢市・大石田町広域連携推進協議会から委託されました。通行量の分析、観光客や企業からのヒアリングを通じて、国道347号の通年通行の効果や尾花沢市・大石田町の活性化に繋げる手法について研究を行いました。調査・研究結果は複数の新聞で紹介されました。

2. キラリ!と光る地元企業の魅力発信プロジェクト第2弾

平成29年度に引き続き、平成30年度も山形県村山総合支庁および地元企業30社と連携した事業を行いました。学生取材員37名が山形県村山地域のモノづくり企業を取材し、Facebookを通じて132本の紹介記事を発信しました。取材では製品や技術だけでなく、若手従業員のワークライフバランスや職場の雰囲気にも目を向け、学生にとつて地元企業で働く魅力を知る貴重な経験になりました。

3. 柳沢(やんくさ)もりあげ隊との共同まちづくり活動

平成30年度も山形県村山総合支庁の支援を受け、中山町で活動する柳沢もりあげ隊の活動に参加しながら、学生がまちづくりに関与できる方向性を議論し、大学祭で地場産品を販売しました。住民の活動に「参加」するだけでなく、自らがまちづくりを企画し「実践」することを学んだ学生は、芋煮発祥の地である同町で新しい芋煮を提案するに至り、それを卒業論文にまとめる学生も現れました。

4. 大石田町に対する移住と観光の提案

尾花沢市・大石田町広域連携推進協議会の支援を受け、平成29年度から行っている大石田町でのフィールドワークを継続し、アクティブシニアを対象にした移住提案と町全体を観光宿泊施設として活用する「街宿」提案を行いました。学生たちは、中小規模の自治体を再生した成功事例を分析し、前年度に抽出した同町の課題に対応する解決策を小冊子にまとめて年度末に同町役場で報告しました。

5. 令和元年度に向けて

少子高齢化、まちづくり、地域公共交通など地域が今日抱える課題について調査や研究を進めることに加え、地域と連携した学生への教育を継続し、地域に貢献できる人材の育成にも積極的に取り組んでいきます。解決したい地域課題などがありましたらお声をかけていただければ幸いです。



大石田町報告会



大学祭

人文社会科学部

大学の講義は、座って先生の話聴き、レポートを書いて提出するだけ…なん
一緒に学ぶ仲間や先生と意見を出し合い、自分の研究テーマについて発表したり、大学
そんなキャンパスライフを満喫して

グローバル・
ガバナンス論
ゼミでみんなと
議論



アマリン・アフィカさん

地域公共政策コース 3年
マレーシアの高校

私達のゼミでは、現代の様々な国際問題に焦点をあて、国際関係論の主要な議論を交えながら、みんなで分析し、このような問題を解決するために、国際社会がどのような取り組みをしているのか、そして、問題解決のためにはどうしたらよいのかについて学習しています。

私は授業以外の時でも、昼休みや放課後に大学の国際ラウンジで、みんなとご飯を食べながら時事問題などについて語り合うことが多いです。その時には、他の人の意見をきちんと聞き、その人がなぜそう言っているかなどを考えながら聞くようにしています。違う意見を持つ人を排除するのではなく、自分の意見を大切にしながら、同時に相手の意見も尊重し、理解し合うその過程が大切だと思います。

様々な人の意見やアイデアを出し合えば、より良い結論や対策が出てくるので、非常に勉強になります。

私の所属する花笠サークル四面楚歌では、毎年八月に開催される花笠パレードに向けて、日々練習に励んでいます。現在では、約200名近くの学生が所属しており、「やっしょ、まかしょ」の掛け声に合わせて、躍動感のあるダイナミックな踊りを披露する花笠パレードは圧巻です。花笠パレードの他にも、東北絆祭りや地域のお祭りなど、全国各地のイベントに参加しており、楽しいイベントがたくさんあります。

また、多くの学生が所属している団体ということもあり、なかなか普段の学生生活では出会えない多くのかげがえのない仲間と出会えるということも魅力であると思います。

ぜひ、皆さんも私たちの踊りを見に来てください!!

花笠
サークルで
躍動



千葉真結さん

総合法律コース 3年
宮城県仙台第二高等学校

様々な活動に
全力投球



板橋 嶺さん

総合法律コース 2年
宮城県仙台第二高等学校

私は様々な活動をバランスよく行うことを念頭に、学生生活を送っています。まず、①学業についてです。私は様々な法律の講義を受講するなかで、難しいと感じることが多々ありますが、法律を通じて世の中の仕組みを理解することを意識し、学習に取り組んでいます。次に、②部活やサークルについてです。運動系のものは達成感、充実感を、文化系のものからは豊かな感受性を得ることができます。そのため、これらの活動を通じて様々な視野の開拓にも努めています。最後に、③アルバイトについてです。アルバイトは社会人との関わりを通じて自分の立ち振る舞いを学ぶ良い機会です。限られた時間を自ら調整し、遂行する能力、これが大学生活のなかで身につけるべき能力だと思います。

ってこんなところ!

※記載順 氏名/コース/学年/出身高校

て思っていないか?人文社会科学部で出来ることは、それだけではありません!
を飛び出して学外調査をしたり、留学やインターンシップに行ったりすることも出来ます。
いる先輩たちからの声が届きました!

海外留学を
通して
自分自身を
見つけ直す

金村 駿 さん

地域公共政策コース 2年
山形県立山形東高等学校



大学生のうちに様々な活動をしてみたいと思い、その一つとして留学プログラムに積極的に参加しています。1年生の夏休業中には大学の「学生大使派遣プログラム」に参加し、初めての海外としてラトビアに2週間滞在しました。現地では、ラトビア大学の学生や社会人を対象に日本語を教える活動を行いました。2年次には「トビタテ!留学JAPAN日本代表プログラム地域人材コース」というインターンシップと海外留学が組み合わさったプログラムへの参加を計画しています。初めての海外滞を通して、改めて日本や地元山形を客観的に見る事が出来ました。海外滞在・留学は、普段の生活では意識しない「自分を形作っているもの」を再認識する絶好の機会です。この見識を今後の活動にフィードバックしていきます。

私はこの8月からのアメリカへの留学に向けて英語の勉強をしています。あちらでの授業は全て英語なので授業に少しでもついていけるように自分の弱点であるライティングに力を入れています。先生からのご指導のもと、エッセイを書くときのルールや英語表現、論述のポイントなど一から勉強しています。留学まであまり時間はありませんが、自分のできることをして有意義な留学にしたいです。また、留学の他に私はサークルにも力を入れています。私の所属しているサークルでは主にバレーボールをしています。活動は週一のため少ないですが一週間の息抜きとして、楽しく活動しています。また、サークルのメンバーでご飯に行くなどサークル外でのつながりもあるため、大学生活で欠かせないものの一つです。これからも勉強もサークルも頑張っていきたいです。

遠藤美咲 さん

グローバルスタディーズコース 2年
福島県立橋高等学校

留学に向けて
日々邁進



短期
英語研修で
語学力の
向上



川島悠輔 さん

グローバルスタディーズコース 3年
宮城県宮城広瀬高等学校

私はこの春、大学のプログラムで三週間フィリピン研修に行ってきました。英語運用能力の向上、英語コミュニケーション能力の向上を図りたいと思い参加しました。普段、大学生活の中で実際に英語を母国語とするネイティブの方とずっと話す機会というのはあまりないので、実際に海外に行き、異文化に触れ生の英語に触れることができたのは大学生活の中でとても良い経験になったと感じています。

人文社会科学部では、英語研修のみならず、中国やロシア、ミャンマー研修などたくさんのプログラムが用意されています。行く意思があれば、誰でも参加することができるのでぜひ大学生活の中で一度は海外に行き、日本では感じる事ができない経験をしてみてください。

平成30年度 卒業生進路状況

学科名		卒業 予定者数	進学 予定者数	その他	就職希望 者数(A)	就職内定者内訳				就職率 B/A
						企業	公務員	教員	計(B)	
人間文化学科	男	33	2	5	26	17	7	2	26	100%
	女	79	0	8	71	54	17	0	71	100%
	小計	112	2	13	97	71	24	2	97	100%
法経政策学科	男	106	2	11	93	56	37	0	93	100%
	女	97	2	6	89	59	30	0	89	100%
	小計	203	4	17	182	115	67	0	182	100%
合計	男	139	4	16	119	73	44	2	119	100%
	女	176	2	14	160	113	47	0	160	100%
	計	315	6	30	279	186	91	2	279	100%

平成30年度卒業生就職・進学一覧

業種／就職先	人間文化学科		法経政策学科	
	男	女	男	女
鉱業、採石、砂利採取業				1
(株)藤坂				1
建設業	1	1		1
小野建設(株)		1		
山形建設(株)	1			
(株)ロゴスホーム				1
製造業		7	6	10
アリオンテック(株)				1
ASEジャパン(株)		1		
エーザイ(株)			1	
3Mジャパン プロダクツ(株)		1		
セコム工業(株)			1	
ダイキンHVACソリューション東北(株)		1		
太子食品工業(株)		1		
TPR(株)				1
(株)デンソーFA山形				1
(株)でん六				1
東北バイオニア(株)			1	
(株)トプコン山形		1		1
トヨタ自動車東日本(株)				1
トヨタ紡織東北(株)				1
(株)ニクニアサヒ				1
日機装(株)			1	
(有)パムック			1	
(株)パロマ		1		
フジクラ電装(株)				1
(株)牧家			1	
ミクロン精密(株)				1
山形航空電子(株)		1		
情報通信業	6	9	9	6
アマノ(株)			1	
(株)アルファシステムズ		1		
アンドロポティクス(株)		1		
宇宙技術開発(株)			1	
(株)SJC		1	1	
(株)NTT東日本 関信越				1
(株)NTT東日本 東北				1
NDソフトウェア(株)	1		1	
(株)エフコム		1		
(株)エム・エス・アイ		1		
(株)ガスコイン・カンパニー			1	
北日本コンピューターサービス(株)		1		
(株)サーベイリサーチセンター				1
サイバーコム(株)				1
(株)シーエスレポーターズ			1	
(株)CDG	2			
(株)ジャステック				1
(株)ステップ				1
(株)胆江日日新聞社			1	

業種／就職先	人間文化学科		法経政策学科	
	男	女	男	女
TIS東北(株)		1		
(株)電縁	1			
東北インフォメーション・システムズ(株)		1		
長田広告(株)	1			
(株)ベネッセインフォシエル		1		
(株)マイナビ				1
(株)山形新聞社	1			
山形放送(株)				1
運輸業、郵便業	2	5	5	4
アイベックスエアラインズ(株)				1
第一貨物(株)	1	1	1	
津軽海峡フェリー(株)		1		
日本航空(株)				1
日本郵便(株)				1
羽田空港サービス(株)		1		
羽田タートルサービス(株)		1		
東日本高速道路(株)				1
東日本旅客鉄道(株)	1	1	1	2
ヤマトグローバルエクスプレス(株)				1
卸売業、小売業	4	11	8	7
(株)アベキ				1
イオンリテール(株)		2		
(株)エービーシー・マート		1		
(株)エネサンス東北		1		
遠藤商事(株)				1
(株)オーシャンシステム				1
岡田電気産業(株)		1		
(株)カクヤス				1
カメイ(株)				1
(株)カワチ薬品				1
(株)コジマ				1
(株)トーハン		1		
東京産業(株)				1
(株)とみひろ		1		
(株)西松屋チェーン		1		
(株)にしむら				1
(株)プラステ				1
フルサトグループ				1
みやぎ生活協同組合	2			1
宮城日産自動車(株)				1
(株)メガ				1
(株)メディセオ		1		
(株)山形丸魚	1			
(株)ヤマザワ	1			
(株)やまと		1		
ユアサ商事(株)				1
渡辺パイプ(株)		1		
金融業、保険業		4	9	13
あいおいニッセイ同和損害保険(株)				2

業種／就職先	人間文化学科		法経政策学科	
	男	女	男	女
岡三証券(株)				1
(株)七十七銀行		1	4	1
住友生命保険相互会社		1		
Chubb損害保険(株)				1
(株)東海日動パートナーズ東北		1		
東京海上日動火災保険(株)				1
東北労働金庫			1	
(株)長野銀行			1	
日本銀行				1
農林中央金庫			1	
野村証券(株)				1
東日本建設業保証(株)				1
明治安田生命保険相互会社				2
(株)山形銀行		1	2	1
(株)りそな銀行				1
不動産業、物品賃貸業		1	2	5
(株)アートアベニュー			1	
朝日総合(株)		1		
アムス・インターナショナル(株)				1
(株)カチタス				1
大和ライフネクスト(株)				1
日本住宅(株)				1
ヒロセホールディングス(株)			1	
(株)平和住宅情報センター				1
学術研究、専門・技術サービス業	1	1	2	3
税理士法人あさひ会計				2
協和測量設計(株)		1		
(株)デイリー・インフォメーション				1
(株)東日本朝日広告社	1			
(株)復建技術コンサルタント				1
(株)ル・プロジェ				1
宿泊業、飲食サービス業		1	2	1
SFPホールディングス(株)				1
Oakwood				1
ルートインジャパン(株)		1		
(株)ワールドリゾートオペレーション				1
生活関連サービス業、娯楽業		3		2
秋田ノーザンハピネッツ(株)				1
岩手開発産業(株)				1
(株)セドナエンタープライズ			1	
(株)ほこだて仏光堂			1	
名鉄観光サービス(株)			1	
教育、学習支援業	2	1	2	
山形県常勤講師	1			
福島県教員	1			
宮城県職員(学校事務)				1
公益財団法人うつのみや文化創造財団 宇都宮美術館		1		
(株)臨海				1
医療、福祉	1	3	4	1
置賜広域病院企業団 公立置賜総合病院				1
医療法人新潟勤労者医療協会 下越病院				1
医療法人財団 明理会 西仙台病院				1
医療法人徳真会グループ		1		
社会福祉法人恩賜財団済生会支部山形県済生会 山形済生病院				1
医療生活協同組合やまがた			1	
栃木県農協健康保険組合	1			
(株)ニチイ学館		1		
日本年金機構				1
複合サービス事業				4
あさひな農業協同組合			1	
JA山形中央会			1	
庄内たがわ農業協同組合			1	
山形農業協同組合			1	
サービス業	2	7	3	5
秋田県商工会連合会		1		
宮城県商工会連合会			1	
(株)セントメディア				1
タイムズサービス(株)			1	

業種／就職先・進学先	人間文化学科		法経政策学科	
	男	女	男	女
(株)大和証券ビジネスセンター				1
WDB(株)				1
(株)TTM			1	
(株)テクノプロ テクノプロ・IT社			1	
(株)東京コンサルティングファーム			1	
東西(株)	1			
東洋ワーク(株)				1
東洋ワークセキュリティ(株)			1	
(株)パソナグループ				1
(株)フェローズ			1	
(株)プレステージ・インターナショナル				1
(株)マーキュリー	1			
(株)メディアハウスホールディングス			1	
国家公務員	2	2	12	17
防衛省 海上自衛隊				1
防衛省 陸上自衛隊	1			1
東北管区行政評価局				1
東北経済産業局				1
東北地方整備局				1
東北農政局				1
東北防衛局		1		
仙台国税局(国税専門官)				3
仙台法務局				1
宮城労働局(労働基準監督官含む)				1
山形地方検察庁				1
山形地方法務局				1
山形労働局(労働基準監督官含む)	1	1	3	2
関東財務局(財務専門官)				1
関東地方更正保護委員会 千葉保護観察所(保護観察官)				1
栃木労働局(労働基準監督官)				1
東京国税局(国税専門官)				1
横浜税関				1
石川労働局(労働基準監督官)				1
地方公務員	5	15	25	13
北海道庁職員(警察行政)				1
青森県職員				1
岩手県職員				1
一関市職員				1
盛岡市職員		1		
宮城県職員	1			2
宮城県警察本部				1
石巻地区広域行政事務組合消防本部				1
気仙沼市職員				1
仙台市職員	1	5	2	3
秋田県職員		1		1
秋田県警察本部				1
山形県職員	1	1	4	1
山形県職員(警察行政)			1	
山形県警察本部				1
鶴岡市職員	1			1
新庄市職員		1		
寒河江市職員		1		
山形市職員		1	5	3
上山市職員	1		2	
長井市職員		1		
白鷹町役場		1		
栃木県職員		1		
足立区職員				1
横浜市消防局				1
新潟市職員				1
浜松市職員				1
進学	2		2	2
東北大学法科大学院				1
東北大学公共政策大学院				1
東北大学大学院情報科学研究科	1			
山形大学大学院社会文化システム研究科	1			1
大阪大学大学院高等司法研究科				1

人文社会科学部 ニュース

人文社会科学部では、一般の方にもご参加いただける講演会をはじめ様々な活動を行っています。掲載している内容は多様な活動の一部です。興味を持った方はぜひ人文社会科学部ホームページをご覧ください。

◆ 前期公開講座報告

世界史における時代区分を考える

日本では今年に入ってから年号が変わり、平成の30年を振り返る機会となりました。そして世界史に視点を移すと、平成元年(1989年)はちょうど天安門事件とベルリンの壁崩壊という、時代の流れを象徴する事件が起こった年でした。2019年6月の公開講座では、冷戦期という時代区分を再考し、ロシア、ヨーロッパ、北米、アジアにおける「冷戦期」を比較しました。とりわけ「冷戦の終わり」がアジアで様々な形をとったことに注目しました。6名の講師が出席した最終回のパネル討論では、1914年から1989年までを「短い20世紀」とみなす時代区分について、白熱した議論が繰り広げられました。



パネル討論の様子

◆ 後期公開講座(令和元年9月開講)

多文化共生と日本

これまでの日本は、外国人を受け入れることに積極的ではなく閉鎖的な社会であるといわれてきました。国際社会がグローバル化し、ヒト、モノ、カネ、情報が国境を越えて行き交う時代のなかで、日本は年間約3,000万人の外国人が訪れる観光立国に成長しました。このように観光地では外国人の姿を目にするようになってきましたが、日本は依然として移民や難民の受け入れには消極的であり、外国人と共存する多文化社会になったとは言い難い状況です。

本講座では、日本における多文化共生をめぐる歴史を振り返り、欧州の多文化共生に触れながら、この課題を「ナショナリズム」や「人権」といったキーワードとともに考えていきます。

◆ ホームカミングデー2019の開催について

人文社会科学部では、今年の10月頃に「ホームカミングデー2019」の開催を企画しています。ホームカミングデーは、同窓生が旧友や懐かしい恩師と再会し、退職・在職教職員や在校生と親睦・交流を深めていただくことを目的としています。詳細な開催日時等は人文社会科学部のホームページ上でお知らせします。



前回のホームカミングデーの様子

第46回模擬裁判公演について

模擬裁判実行委員会 第46代委員長 人文学部4年 鈴木 優介

昨年11月28日(水)、29日(木)に山形市中央公民館にて平成最後となる第46回模擬裁判公演「綻び 過労自殺…その死は誰のせい?」を開催しました。

模擬裁判公演は山形大学の自主ゼミナールである模擬裁判実行委員会が主体となり、学生ならではの視点から法律問題や社会問題を取り上げ、市民の皆様へ研究成果として発表しています。また、公演に関わるシナリオ・パンフレット作成、広報・広告活動、演出の全ては学生によって手掛けています。

第46回公演では近年、ニュースやネット、SNSでよく話題に挙がる「過労死」をテーマとして取り上げました。民事裁判で取り扱われる事が多い過労死をあえて刑事裁判で扱うことにより、過労死問題の根源について言及しました。刑法、民法、労働法など様々な法律が複雑に混在する中で過労死問題がどのように扱われるのかを詳しく、分かりやすいシナリオや演出、パンフレットを通してお伝えしました。

当公演を通して過労死問題について少しでも多くの方々に関心を持っていただくことが出来たら幸いです。模擬裁判実行委員会はこれからも活動を続け、様々な法律問題や社会問題を取り上げて行きます。今後とも、模擬裁判実行委員会へのご協力、ご理解のほどよろしくお願いいたします。



人文社会科学部ニュース 51巻1号

○発行/山形大学人文社会科学部 ○編集/人文社会科学部広報委員会 ○発行日/令和元年8月1日
〒990-8560 山形市小白川町1-4-12
<https://www-hs.yamagata-u.ac.jp/> E-mail : jisoumu@jm.kj.yamagata-u.ac.jp

※本学部の最新情報については、ホームページをご覧ください。

【人文社会科学部】<https://www-hs.yamagata-u.ac.jp/> 【人文学部】<http://www-h.yamagata-u.ac.jp/>